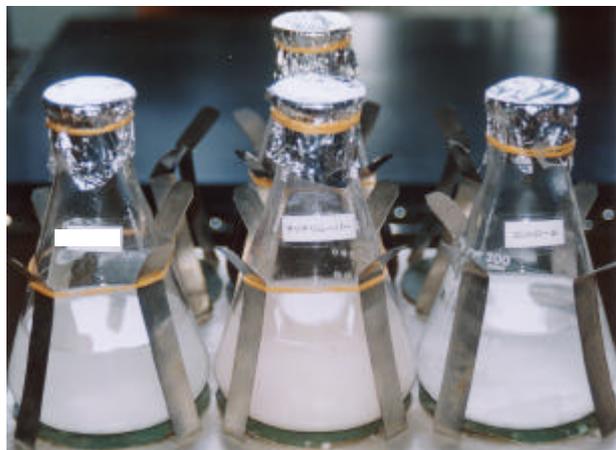


サッチ・リムーバーのセルロース分解試験



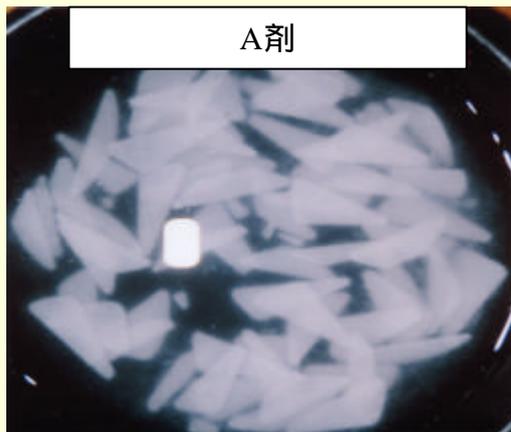
9日後の状態

あらかじめ16等分にカットした定量ろ紙(NO6、直径：7cm 原料：セルロース)を、2gずつ三角フラスコ(容積300ml)に入れ、所定濃度(各剤1g/200ml)の処理液を三角フラスコに処理し、下の写真のようにロータリーシェーカー(100～120rpm)で9日間振とうさせる。試験期間中の温度は25～28℃に保つ。

サッチ・リムーバー



A剤



B剤



コントロール



一般的な微生物由来のサッチ分解剤であるA剤、B剤に比べサッチリムーバーは酵素(セルラーゼ)そのものを利用しているため、今回のような室内試験においても安定した効果が確認できました(A剤、B剤は微生物がフラスコ内で定着できなかった可能性が高い)。